

平成29年度の献血実績の評価について

1. 平成29年度実績の評価

- 輸血用血液製剤について、必要な血液量を確保し、医療機関の需要に応じて不足することなく安定的に供給することができた。
- 医療機関の需要に合わせて必要な血液量を確保しているところ、平成29年度は輸血用血液製剤の供給本数が全体で対前年度約4万本減少したことから、献血者数及び献血率がいずれも減少したと考えられる。また、200mL献血由来製品の需要が減少している動向を踏まえた400mL献血の推進方策等も減少要因として考えられる。
- 若年層の献血者数及び献血率について、20代及び30代では平成29年度においても減少傾向にあるが、10代については、献血者数は対前年度約0.5万人増(1.8%増)となり、献血率は対前年度0.1%ポイント増の5.3%となった。この要因としては、副読本(けんけつHOP STEP JUMP)の配布や献血セミナーの実施など、厚生労働省及び日本赤十字社等による高校生を対象とした各種普及啓発の成果に加え、平成29年度から実施した厚生労働省、日本赤十字社及び都道府県による、年代別献血者数の目標設定とその進捗管理が大きく影響したと考えられる。

2. 平成31年度献血推進計画策定にあたっての方向性(案)

- 将来にわたって安定的に献血者を確保するためには、若年層の献血者数及び献血率の増加を図るための各種取組について、引き続き重点的に推進する必要がある。
- 平成29年度の年齢別献血率によると、18歳では7.8%、19歳では7.6%と10代後半で比較的高い献血率を示しているが、20代から30代前半にかけて献血率が減少する結果となった。
- これらを踏まえ、平成31年度献血推進計画の策定にあたっては、以下の項目を重点的に推進することとしてはどうか。
 - ① 若い時期における献血の経験は、その後の献血への動機付けになることから、10代については、まずは献血を経験してもらう、全体の底上げという点でも初回献血者の確保を中心とした取組を検討する。
 - ② 献血率は、18歳、19歳をピークに35歳まで減少する傾向が見られることから、20代から30代については、一度献血を経験された方が、継続して繰り返し献血に協力していただくことを中心とした取組を検討する。